

日本橋再開発を中心とした都市開発

社会課題と向き合う街づくり

現代は「VUCA」の時代と言われるように、不安定で変化の激しい多様な要因が複雑に絡み合い、先を見通すことが困難な社会である。国連の持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標で示された社会の抱える脆弱性(せじやく)と、真摯に向き合わないといけない。現代では建築や都市づくりを通して地域課題や社会課題解決への期待はますます高まっている。こうした観点から、ここでは東京・日本橋地域の再開発が先導的なプロジェクトとして有する意義について考える。

ハード・ソフト一体的に

「まちづくりを通じた複数の社会課題の統合的・同時解決」。コロナ禍を経て人と人との交流の重要性が再認識されたことや、デジタル変革(DX)の進展などサイバ空間が拡充されればされるほどリアルな活動とそれを支える現実空間の重要性は増すことになる。加えて、注目すべき点として経済・環境・防災・国際化・教育・福祉など、さまざまな社会的課題に直面している。現代社会ではまちづくりを通して地域課題や社会課題に解決の大きな可能性を期待が高まっている。

私たちが社会が抱える課題はいずれも複数の要因が複雑に絡み合っている。このように個々の建物の性能を高めるだけでは不十分で、まちづくりの場面で、ハード・ソフトの両面での一体的な取り組みを推進し、これまでの個別のアプローチではなかなか達成できなかった課題の統合的・同時解決を時代の状況に即した形で進めよう。

地産地消 自立分散型エネ構築

「まちづくりを通じた複数の社会課題の統合的・同時解決」。

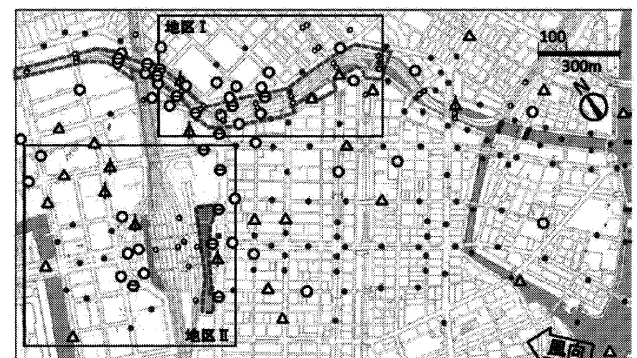


図2 風洞実験による再開発前後の風速の変化の検証事例 ※⑥



図1 災害時の業務継続に必要なエネルギーの安定供給が確保される業務継続地区(BCD:Business Continuity District)の構築イメージ ※④

- ※出典・参考文献
- ①一般社団法人日本熱供給事業協会、全国の地域熱供給, <https://www.jdhc.or.jp/article/日本橋室町西> (参照日2024年8月1日)
 - ②国土交通省都市局、大都市におけるエネルギーの面的利用に関する事例集, p17-18, 令和3年3月
 - ③国土交通省都市局市街地整備課, 国際競争業務継続拠点整備事業, https://www.mlit.go.jp/toshi/city/sigaiti/toshi_urbanmainte_tk_000045.html (参照日2024年8月1日)
 - ④日本橋再生計画, <https://www.nihonbashi-tokyo.jp/revitalization/3rd/waterside/> (参照日2024年8月1日)
 - ⑤国土交通省都市局都市計画課, ヒートアイランド現象緩和に向けた都市づくりガイドライン, p14-15, 平成25年12月
 - ⑥鍵屋浩司, 足永靖信, 増田幸宏, 大橋征幹, 平野洪資, 尾島俊雄: 大規模な都市再開発が熱環境に及ぼす効果・影響に関する実験的検討, 日本建築学会環境系論文誌No.649, p. 305-312, 2010年3月
 - ⑦日本学術会議声明「生活の質を大切にする大都市政策へのパラダイム転換について」(2005年4月)

広大な親水空間誕生 ヒートアイランド対策

「まちづくりを通じた複数の社会課題の統合的・同時解決」。

「まちづくりを通じた複数の社会課題の統合的・同時解決」。

●VUCAとは
VUCAはVolatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとった言葉

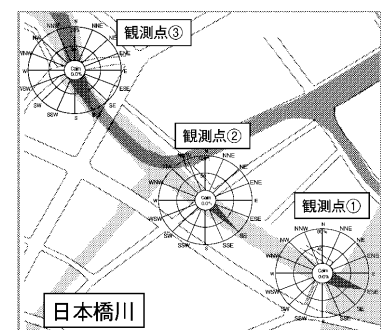
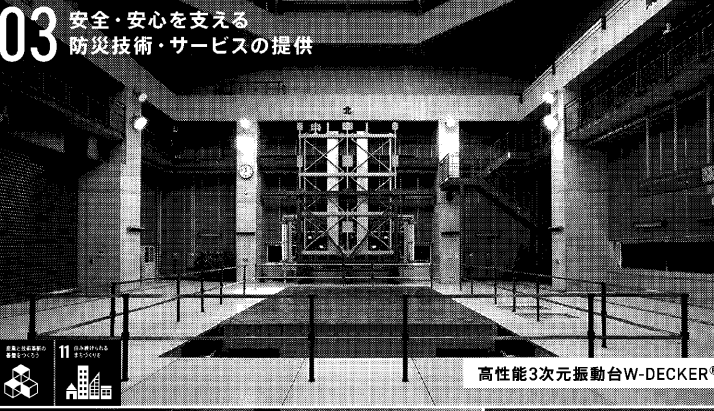


図3 夏期の日本橋川における河川に沿った河口側からの風の流れの観測事例

「まちづくりを通じた複数の社会課題の統合的・同時解決」。



「もっといい未来をつくる」鹿島の7つの約束

鹿島グループが目指す未来。それは、人の思いと技術を受け継ぎ、想像と感動をかたちにすること。

新たな価値を創出するまちづくり、建物やインフラの長寿命化、安全・安心を支える防災・減災技術、カーボンニュートラルなど、さまざまな取り組みをとおして持続可能な社会へ。

これからも人とパートナーシップを大切にしながら、新しい発想で挑戦し、もっといい未来をつくっていきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsと鹿島の事業活動の詳細はこちら



子どもたちに誇れるしごとを。

目を輝かせて何かに没頭していたあの頃から、私たちのものづくりへの気持ちは変わりません。ずっと思い描いてきた夢や情熱を、建造物に込めて未来へ伝えていきます。



建設業、2024年問題などの働き方改革

時間外労働「月45時間・年360時間」

建設業における2024年問題では、働き方改革関連法による時間外労働の上限規制が24年4月1日に適用された。働き方改革の課題として時間外労働の上限規制が適用され、労働環境の改善が求められており、知っておかなければならない重要事項と改善課題が多い。

■はじめに
働き方改革関連法では時間外労働の上限が原則「月45時間・年360時間」となる。これに違反すると罰則が課せられ、原則としてこれを超えて働かせることはできなくなる。これは法定労働時間である日8時間/1週40時間と法定休日である週1日を超過して労働させる場合に、労働基準法第36条に基づく労使協定と労働基準監督署長への届け出を行う36協定を締結・届出しているも適用される。

現場人材の高齢化・若者不足が顕著

ものづくり大学
技能工芸学部建設学科教授
三原 斉

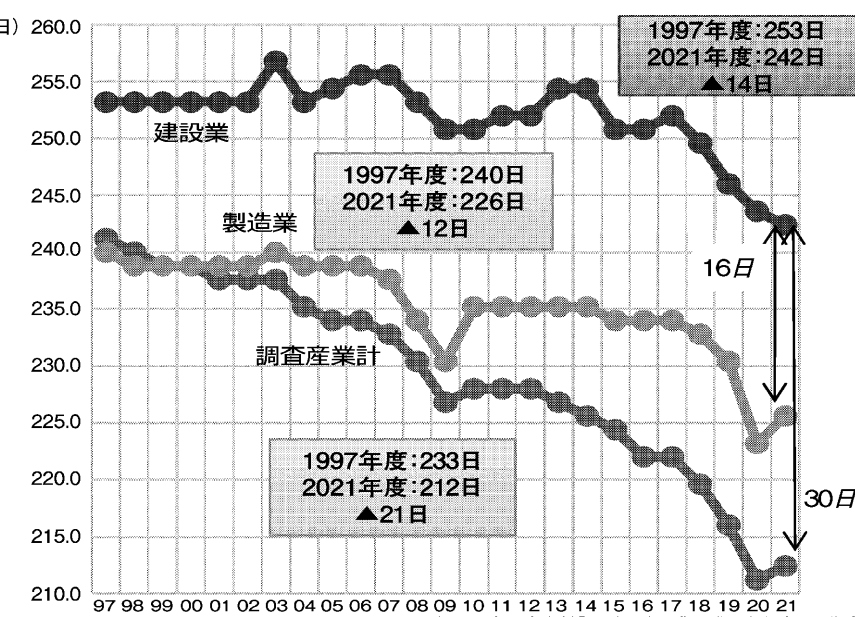
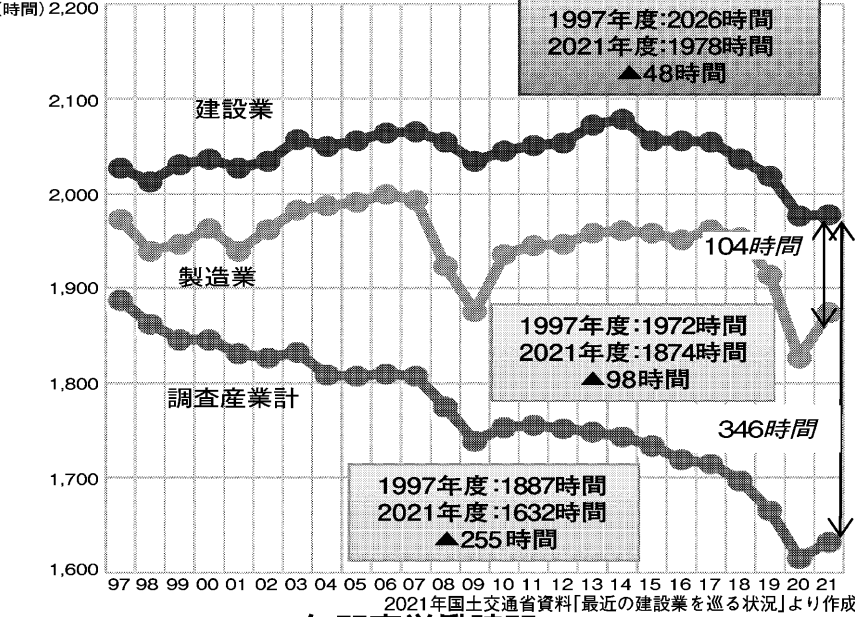
建設現場では現場人材の高齢化と若者の不足が顕著である。国土交通省では21年の建設労働力は24年問題における大きな改善が必要である。現在までに建設業が取り組んできたこととしては、週休2日制と長時間労働の減少、情報通信技術（ICT）の導入、技能に合わせた賃金の支給、福利厚生などの各種手当の充実であった。特に長時間労働の是正が公共性のある建設業に求められており、民間企業でも週休2日制導入により労働環境を改善し、若者が建設現場へ入職しやすい職場環境を整えた。

ICT活用、業務効率化／多様な休暇制度導入

建設業の時間外労働の削減には、労働時間の管理強化や効率的な業務運営が必須である。業務の効率化を図るための働き方改革の取り組みとして、ICTの活用が重要である。

建設業の時間外労働の削減には、労働時間の管理強化や効率的な業務運営が必須である。業務の効率化を図るための働き方改革の取り組みとして、ICTの活用が重要である。

建設業における休日の状況。現在4週8休は2割程度。4週8休 19.5%、4週7休 6.7%、4週6休 29.7%、4週5休 7.8%、4週4休 29.7%、4週3休以下 6.6%。4週8休 14.2%、4週7休 6.2%、4週6休 26.9%、4週5休 7.4%、4週4休 37.5%、4週3休以下 7.7%。4週8休 22.6%、4週7休 6.8%、4週6休 31.5%、4週5休 9.2%、4週4休 24.6%、4週3休以下 5.3%。



建設業における2024年問題では、働き方改革関連法による時間外労働の上限規制が24年4月1日に適用された。働き方改革の課題として時間外労働の上限規制が適用され、労働環境の改善が求められており、知っておかなければならない重要事項と改善課題が多い。

一般社団法人日本建設業連合会
会長 宮本 洋一
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 東京建設会館内
電話 03-3553-0701
URL https://www.nikkenren.com/

NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED
日建設計
代表取締役社長 大松 敦
東京都千代田区飯田橋2-18-3 Tel. 03-5226-3030
https://www.nikken.jp

つくるを、つくり変えろ。
人類の歴史は、つくることの歴史だ。
制約、常識、願望。
人は、つくることによって、さまざまなことを乗り越えてきた。
時代が大きく変わろうとしている今。
私たちは、つくることそのものをつくり変えてゆこうと思う。
形あるものだけが、ものづくりか。
人間のためのものだけが、すべてか。
常に問いかけながら、可能性を拓き続けようと思う。
世界は不確かで、複雑さを増している。
でも、だからこそ。
これまで培ってきた力が、
まだ見たことのないものを実現する原動力になるはずだ。
なぜならいつだって、つくることは、何かを超えることなのだから。
建設の枠を超え、新しい領域を拓いてゆく。
次の大林組の挑戦に、ご期待ください。
◆ 大林組
つくるを拓く
MAKE BEYOND

あなたから始まる
住まいづくりを、もっと。
住まいと暮らしの
創造企業グループ
長谷工 コーポレーション
HASEKO

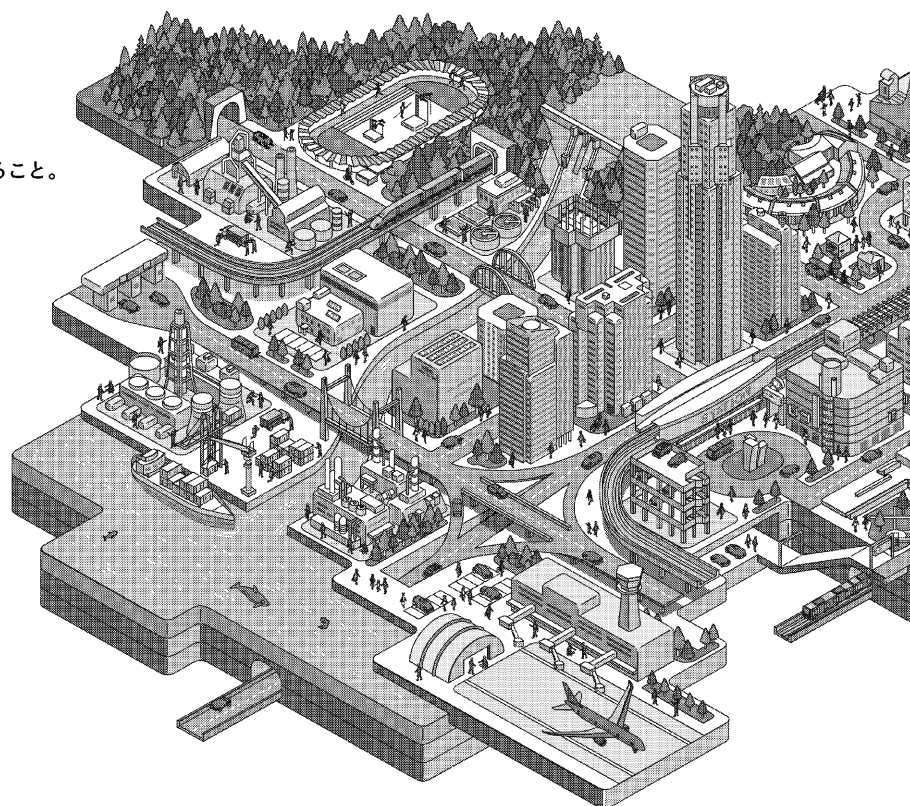
まかせられる人が、いる。

西松建設は、人でできている。
 動く人。挑む人。粘る人。閃く人。創る人。話す人。
 そこに共通するのは、
 いつも誰かの役に立ちたいと想っているということ。

私たちの使命は、安心・安全な暮らしの土台をつくること。
 だから、誰よりも「信じられる存在」でありたい。

もっと、お客様のために汗を。
 もっと、社会のために価値を。
 もっと、明日のために挑戦を。

一人ひとりの今日を積み重ねて、未来を生んでいく。
 「人」を誇る西松建設の、150年目の約束です。



まかせられる人が、いる。
NISHIMATSU

Wharf Construction of
Tokyo International Cruise Terminal
Tokyo, Japan 2020

Toyo Suisan Ishikari
Distribution Center
Hokkaido, Japan 2020

Reclamation of Pulau Tekong
Singapore 2016

私たちの今が、 社会の未来を創る

Create Value, Build the Future

社会情勢の変化に対応する「しなやかさ」、激しい時代の潮流を掴む「俊敏さ」
 志を持って自身の成長を求める「自分らしさ」、地に足をつけて着実に前進する「一歩先へ」
 これらは私たちが実践する行動スローガンです。
 私たちは今、この時の行動ひとつひとつを大切に、
 これからの社会に新たな価値を創造し、ステークホルダーのみなさまとともに
 未来の社会に貢献し続けることを約束します。

Improvement of
National Route 46 at Sakonoshita
Iwate, Japan 2020

コーポレート
メッセージを
集めました。

東亜建設工業
TOA CORPORATION

〒163-1031 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー www.toa-const.co.jp

ゼネコン各社の最新動向

新たなビジネスチャンス



■**鹿島建設**
 鹿島はゼリア（東京都港区）、日工、北川鉄工所とともに、CO₂の排出量が実質ゼロ以下となるカーボネガティブコンクリート専用の製造プラントを兵庫県加西市に建設、運用を始めた。CO₂の排出削減や固定・吸収につながる多種多様な材料からなるコンクリートの試験製造が可能。水や電力の使用に伴うCO₂排出量を正確に把握できる設備も備え、排出量の効果的な削減に向けた技術開発が可能となる。プラントには練り混ぜ方式の異なる2台のミキサーを装備。粉体の貯蔵ビンや混和剤用のタンクを配備する。また、材料投入フロアに一般的なコンクリート製造プラントにはない材料保管場所を確保した。また温度や湿度、CO₂濃度をさまざまな形で制御できる炭酸化養生設備や、コンクリート製造時に発生する排水（スラッシュ水）について高濃度かつCO₂を固定した状態で有効利用を検討する排水処理設備などを設置している。

■**清水建設**
 清水建設は自家発電した再生可能エネルギーを直流電力のまま2棟間で融通し、エネルギー利用効率の最大化を図る直流配電システムを、

■**鹿島建設**
 鹿島はゼリア（東京都港区）、日工、北川鉄工所とともに、CO₂の排出量が実質ゼロ以下となるカーボネガティブコンクリート専用の製造プラントを兵庫県加西市に建設、運用を始めた。CO₂の排出削減や固定・吸収につながる多種多様な材料からなるコンクリートの試験製造が可能。水や電力の使用に伴うCO₂排出量を正確に把握できる設備も備え、排出量の効果的な削減に向けた技術開発が可能となる。プラントには練り混ぜ方式の異なる2台のミキサーを装備。粉体の貯蔵ビンや混和剤用のタンクを配備する。また、材料投入フロアに一般的なコンクリート製造プラントにはない材料保管場所を確保した。また温度や湿度、CO₂濃度をさまざまな形で制御できる炭酸化養生設備や、コンクリート製造時に発生する排水（スラッシュ水）について高濃度かつCO₂を固定した状態で有効利用を検討する排水処理設備などを設置している。

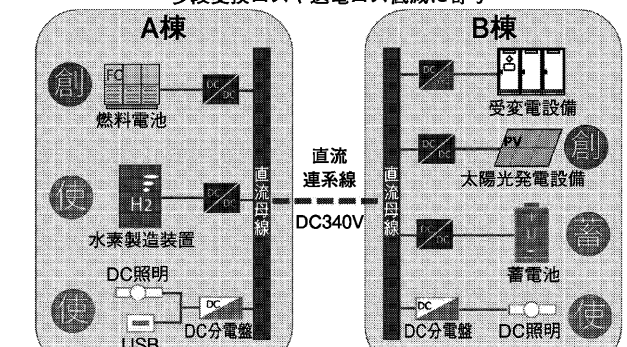
■**清水建設**
 清水建設は自家発電した再生可能エネルギーを直流電力のまま2棟間で融通し、エネルギー利用効率の最大化を図る直流配電システムを、

ゼネコン各社が脱炭素化に向けた取り組みを加速している。資材の調達から建物の設計・施工や運用・改修・解体に至るまでの各段階で、さまざまな技術やノウハウを活用し、二酸化炭素（CO₂）排出削減につながる成果が増えてきた。脱炭素の活動は、生産性や企業ブランドの向上、新たなビジネスチャンスに結びつける成長戦略の一つとしても重要性が増している。活動の深化を通じて、今後さらに多くの成果が期待が高まる。

鹿島 環境対応コンクリ試験

清水 拠点に直流配電設備

「創る」発電装置、「蓄える」蓄エネ装置、「使う」負荷、が偏在した敷地において、直流で「配る」棟間連系を可能とした直流マイクログリッドを構築。多段階変換ロスや送電ロス低減に寄与。



直流配電システムの構成(清水建設)

ムを、自社のインベション拠点「温故創新の森NOVARE」に負荷機器へ供給して、グリーン電力を敷地内で有効活用できる。電力使用に伴うCO₂排出量の削減と災害時の電源確保の両立を見込んでいる。つ、太陽光発電の余剰電力を利用して水電解設備の太陽光発電など、装置で水を製造して構成。それぞれ太陽光発電と蓄電池、水素燃料電池と水電解装置を配置した2棟間を直連する。必要電力を確保する。

すべての事故をゼロに。

安全教育CG動画サービス

リアルなCG動画で **リスクを予測**

火災

巻き込まれ

感電

挟まれ

酸欠

衝突

転倒

転落

動作

飛散

落下

株式会社ジコゼロ

NETIS新技術情報提供システム登録製品
KT-220122-A

株式会社ジコゼロ
〒171-0014 東京都豊島区池袋2-17-8
TEL.03-6907-2510
https://www.zikozero.com

信じるんだ、 自分を、仲間を、 叶える力を。

高める、つくる、そして、支える。

熊谷組

Believe.

三井住友建設
https://www.smcon.co.jp

はしも、 まちも、 ひとも。

橋をわたり、街をあるき、大切な人とすごす。

そんな日々の暮らしがいつまでも続くよう、
 豊かな未来につながるものづくりに全力で取り組みます。

つくるだけじゃ、 だめなんだ。

サステナブルな社会を実現するために始めた

次世代エネルギープロジェクト。

水素を利用できる分散型エネルギーシステムで

省CO₂の電力と熱をつくり、電力を蓄えることやプラントから

離れた場所の建物などにも供給することができます。

建物やエネルギーをつくるだけでなく、

つくった電力を最適に利用する

エネルギーマネジメントシステムを通じて、

新たなソリューションサービス

ご提供します。



東京都港区東新橋一丁目9番1号 TEL:03-3575-6001(代表) <https://www.ad-hzm.co.jp/>



その仕事が、誰かの未来になる。

— 総合建設業 / 創業1862年 —



<https://www.satokogyo.co.jp>

脱炭素を加速する

■大林組 大林組は一つの建物から鉄骨やコンクリートなどの全部材を取り出し、新築建物の構造体として再利用する取り組みに乗り出した。カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）やサーキュラーエコノミー（循環経済）に寄与する技術の開発や提案につなげるのが狙い。

同社の技術研究所（東京都清瀬市）内で実験棟の新築工事に適用し、再利用した構造体の加工状況などを検証する。

■大成建設 研究所内の鉄骨（S）造の電磁環境実験棟を解体して構造部材を取り出し、2026年に完成予定の実験棟で再利用する。柱や梁などの鉄骨部材に代わって加工し、新規の部材と組み合わせる。コンクリート製構造部材もリユース材として活用する。

■大成建設 新築建物で使う構造部材のうち、リユース材は鉄骨が57%、コンクリートは33%。すべての資材を新たに調達するケースに比べて約49%のCO₂削減効果を見込んでいる。



大林組の実験棟の完成イメージ



ペレット化したジャイアントミスカンサス（大成建設）

■大林組 建物材再利用で新実験棟

大成建設は北海道平取町で栽培した燃料用作物「ジャイアントミスカンサス」をペレット加工し、バイオマス燃料としてボイラに使い熱供給を行う実証試験に取り組んでいる。同町でトマトを栽培するヒールハウス

■大成 燃料用作物ペレット加工

竹中工務店はサーキュラーエコノミーの実現に向けて、建設廃棄物のアップサイクルに力を入れている。その第一弾となるのが、国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビルとして建設する東京・日本橋の「日本橋本町一丁目3番計画（仮称）」。



アップサイクルの取り組みを行う「日本橋本町一丁目3番計画（仮称）」（竹中工務店）

■竹中 廃棄物をアップサイクル

竹中工務店はサーキュラーエコノミーの実現に向けて、建設廃棄物のアップサイクルに力を入れている。その第一弾となるのが、国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビルとして建設する東京・日本橋の「日本橋本町一丁目3番計画（仮称）」。

■戸田 高圧噴射攪拌で汚泥減量

戸田建設は、高圧噴射攪拌工法「ハイブラスジェット」を開発した。高吸水性ポリマーを切削水として使うことによって、地盤の切削能力の向上と建設汚泥の減量を實現。今後、技術マニュアルなどを整備し、地盤改良技術として活用していく。



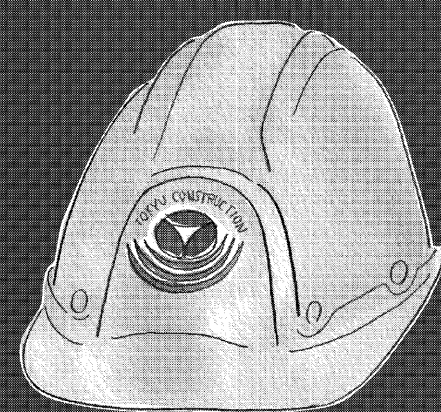
「ハイブラスジェット」のフィールド実験（戸田建設）

0へ挑み、0から挑み、 環境と感動を 未来へ建て続ける。

東急建設は、環境・社会課題の解決に向けて挑み続けます。



「建てる」を超え、未来を生みだす。



未来から信頼される建設会社へ。



<https://www.maeda.co.jp>

INFRONER Holdings Inc.



FUJITA

フジタと描く、未来のカたち。

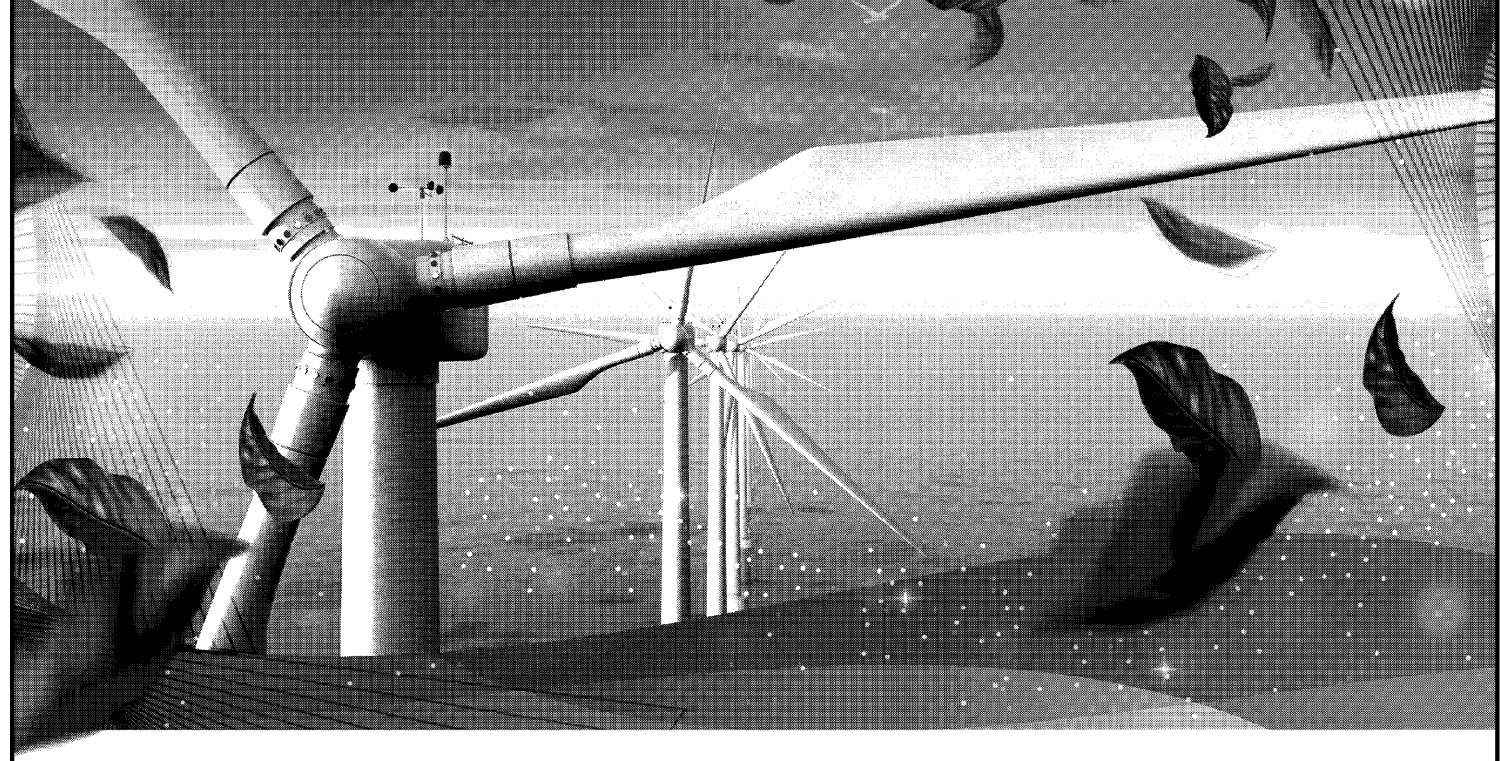
私たちフジタは、お客様や社会が思い描いている未来を想像し、その実現に向かって、共にカタチにしていきます。土木・建築の枠を超えて、まちづくりをサポートし、そこに暮らす人々にとって本当に価値あるものを創り続けることが私たちの使命だと考えます。大和ハウスグループの一員として、広い視野を持ち、グローバルに展開してきたフジタ。たゆまず進む私たちに、どうぞご期待ください。

FUJITA

DaiwaHouseGroup®

海風とかなえる カーボンニュートラル

1929年の創業から1世紀にわたり
海とともに歴史を紡いできた誇りを胸に、
「洋上風力発電」への取り組みをさらに加速し、
社会課題の解決や豊かな未来づくりに貢献します。



夢から感動へーハートテクノロジー

東洋建設

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105
TEL.03-6361-5450

<https://www.toyo-const.co.jp/>



グリーンインフラ活用事例

建設産業への実装期待

グリーンインフラとは環境保全に役立つ自然の多様な機能や仕組みを、社会資本整備や土地利用に積極的に活用する取り組みのことである。環境・社会・企業統治（ESG）投資や自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）など、事業の資金調達や顧客の経営評価に貢献する要素を含んでおり、持続可能な社会の実現に向けて建設産業における実装が期待されている。ここでは、グリーンインフラを取り巻く動向と具体例として当社の事例を紹介し、課題と今後の展望を示す。

グリーンインフラの活用が進む背景

気候変動の影響、および経済や生活の基盤となる生物多様性の損失や自然資本の減少が現実的な課題となる中、有効かつ普遍的な取り組みとして、国土交通省が2023年9月に「グリーンインフラ推進戦略2023」を発表した。その中で、あらゆるインフラ整備にグリーンインフラをビルトインすることが示されている。

フジタ
土木本部 土木エンジニアリングセンター
企画部 インフラ環境グループ
特別主席コンサルタント
島多 義彦

生物・自然の仕組みをビルトイン

英国では生物多様性ネットワーク（損失分以上の環境的な価値を生み出すこと）政策が行われ、自然環境を事業前より10%以上回復させなければ開発許可が下りないことになっており、生物多様性に関する国際標準化も進められている。今後、民間企業だけでなく公共事業においても、事業を通して生物多様性を豊かにすることが求められる。

サステナ施設、トイレ洗浄水・散水に雨水活用

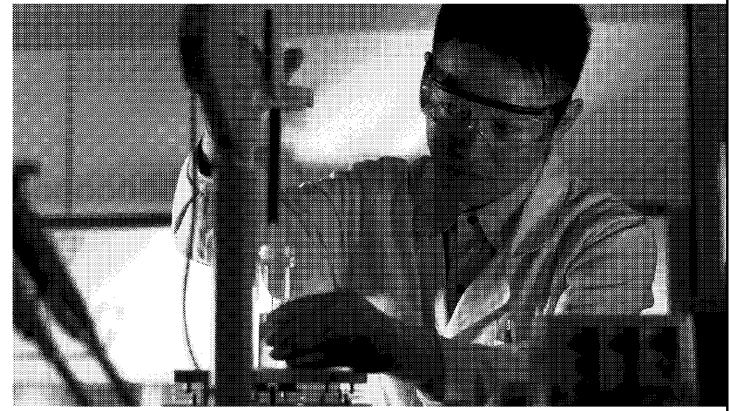
建設産業では企業施設などの建設や開発にあたり、事業地の緑地を自然植生などに配慮して整備し、モニタリングと管理、および自然共生サイトなどの認証登録まで請け負う会社も増えている。また、補助金と連動した緑地整備の国の認証制度では、緑地率だけでなく多様な機能を持つグリーンインフラが求められるつつあり、緑地の認証や便益を土地の資産価値評価や資金調達に反映する制度づくりも進められている。



枯山水風のレインガーデンのあるエントランス

建設産業では企業施設などの建設や開発にあたり、事業地の緑地を自然植生などに配慮して整備し、モニタリングと管理、および自然共生サイトなどの認証登録まで請け負う会社も増えている。また、補助金と連動した緑地整備の国の認証制度では、緑地率だけでなく多様な機能を持つグリーンインフラが求められるつつあり、緑地の認証や便益を土地の資産価値評価や資金調達に反映する制度づくりも進められている。

ここにしかない技術で未来を支える。



FUDOTETRA

株式会社 不動テトラ

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町7番2号 べんてるビル
TEL.03-5644-8500



新たな挑戦が始まる An Era of New Challenge Begins



五洋建設は、海の土木にはじまり、陸の土木、建築へと業容を拡大してまいりました
DNAである進取の精神でデジタルとグリーンに挑戦します
部門の垣根を越えて、グローバルに、さらにその先の未来へ

五洋建設株式会社

<https://www.penta-ocean.co.jp/>



若き感性、築いた伝統。



その風は、海から生まれた。そして、空を取るように、道を繋ぐように、街と暮らしを動かし、物語を紡いだ。海洋土木から始まった私たちの「ものづくり」の歴史は、いま、世界をフィールドに、次のステージへ羽ばたこうとしている。この先もずっと、社会を支え続けるために、人々に幸せを届けるために、サステナビリティの追求とカーボンマネジメントの取り組みを強化しながら、さあ、次の夢をかたちにしていこう。

若築建設 〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-23-18
TEL.03-3492-0271 FAX.03-3490-1019
www.wakachiku.co.jp

今、世界は大きく変わろうとしている。
先人たちが培ってきた想いを受け継ぎながら既成概念の壁に挑み、
新しい発想や技術に磨きをかけ明日に向かって進んでいく。
さあ、今この瞬間から超えていこう。
それこそがイノベーションを巻き起こし、私たちが明るい世界に導く原動力となる。
新しい時代への夜明けは近い。



挑め、進め、超えろ。

鉄建建設 **TEKKEN**

持続可能な社会の実現へ



①整備後に地元に管理されているヒメボタル保全地
②ドローン測量による山林の地表面形状と樹木位置の重ね合わせ画像



【街づくりの事例】
大阪府内の土地区画整理事業では希少動植物を自主的に事前調査し、ヒメボタル（大阪府の準絶滅危惧種）の生息環境の回復に取り組んだ。
ネットワークカメラなどで夜間に点滅発光するボタルの発生状況を効率よく高い精度で把握できるボタルモニタリングシステムや環境調査データから幼虫の生息適地を評価する手法を開発。幼虫の生息に適した地形や土壌環境になるよう緑地整備を行った。
また、緑地面積を事業前より約1.6倍増加させ、植樹による光害対策なども実施した。その結果、施工した翌年の23年5月にはヒメボタル成虫のピーク時の発生量が施工前より増加したことを確認し、生息地のネイチャーポジティブを実現した。この緑地は、自治体と環境保全団体が「ヒメボタル保全地」に指定して管理されている。これらの二つの事例の緑地は、自然共生サイトに登録申請される予定となっている。
【DXの事例】
建設産業ではグリーンインフラにおいてもDXが進

ドローンで緑地と生態系サービス把握

① SDGs（持続可能な開発目標：～2030年）
② カーボンニュートラル（温室効果ガス濃度の安定化：～2050年）
③ ネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を止め、回復軌道にする：～2030年）
④ 地域の社会課題解決（防災・減災、環境保全、健康増進、人口減少・高齢化、地域振興、文化継承ほか）
②と③は組織や製品に対して次の2つの動きがある。
●国際標準化（ISO）：気候変動は2023年11月発行（ISO 14068-1）
生物多様性はTC331で検討中
●TNFDへの対応
①～④のいずれにもグリーンインフラは貢献
⑤ グリーンインフラ推進戦略2023
官民一体であらゆる社会資本整備やまちづくり等にグリーンインフラを反映させること、すなわち「グリーンインフラのビルトイン」により、「自然と共生する社会」の実現を目指す。
▶自然の多様な機能の活用、生物多様性を保全・回復する事業が増加

グリーンインフラの活用が進む背景

グリーンインフラを社会実装するには、グリーンインフラの認知度が低いことが課題であり、ネイチャーポジティブの取り組みと協調して推進していくことが有効である。また、多様な機能の定量評価やエビデンスとなる情報が海外と比較して不足している。
日本建設業連合会では、環境技術部会のワーキングで実務担当者向けの参考資料の作成に取り組んでいる。グリーンインフラ官民連携プラットフォームでも会員から課題を抽出し、エビデンス情報の整備が検討されている。
今後、産官学民で協調した社会実装が進展し、社会課題の解決と地域・自然の価値を向上するグリーンインフラ、およびそれに有効な技術や人材を提供できる建設産業にさらなる進化していくと考えられる。

安全・安心・地球に優しい 6価クロム浄化剤

改良6出友し 特許取得済

バイオのちからで、6価クロムを安全な3価クロムに無害化!

地盤改良、杭残土、再生砂、生コン残渣などセメント由来の6価クロムに幅広く対応します

初野建材工業株式会社 〒350-0852 (049) 224-5131
埼玉県川越市川越2363-3 FAX (049) 224-5209 https://6denashi.com/

NETIS 登録商品 登録No.KTK-160025-A

出展募集中

持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりに向けて

グリーンインフラ産業展 2025

～ネイチャーポジティブの実現～

詳しくはこちら

2025年 1月29日(水) - 31日(金) 10:00 - 17:00
東京ビッグサイト 南ホール

2025年 1月22日(水) - 2月7日(金)
オンライン

主催：日刊工業新聞社
共催：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム
協办：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

EXPO 2027

想像力は、地球よりデカイ。

私たちの頭の中には無限の宇宙が広がっています。
変幻自在のデジタル・トランスフォーメーションも、
新たな未来を創るサステナビリティ・トランスフォーメーションも、
無限のイマジネーションとイノベーションマインドの産物。
私たちなら、この星の未来だって変えられるはず。
地球よりも大きな想像力が、トビシマにはあるのですから。

人と自然がともに豊かに暮らす未来へ。
BIG IDEA from TOBISHIMA.

スマートな未来へ New Business Contractor

飛島建設